

主要事業の状況

事業分野	主要製品	売上高・営業利益(単位:百万円)・従業員数
情報機器事業 コニカミノルタ ビジネステクノロジーズ(株)		MFP・プリンタ・マイクロフィルム用 読み取り/出力機器・ファクシミリ・トナー などの消耗品・各種ソフトウェア・システムソリューションサービスなど
オプト事業 コニカミノルタオプト(株)		光ピックアップレンズ・レンズユニット・マイクロカメラユニット・液晶偏光板用TAC(トリニアセチルセルロース)フィルムなど
フォトイメージング事業 コニカミノルタ フォトイメージング(株) コニカミノルタカメラ(株) 上記2社は平成16年4月1日に統合し、コニカミノルタフォトイメージング(株)となりました。		デジタルカメラ・フィルムスキャナ ・フィルムカメラ・インクジェットメディア・オンラインラボ・フィルム・レンズ付フィルム・デジタル証明写真システム・デジタルIDカード・プラネタリウムなど
メディカル& グラフィック事業 コニカミノルタエムジー(株)		医療／印刷用フィルム・X線画像のデジタル画像処理機器・診断用医薬品・カラープルーファー(色校正出力機)など
計測機器事業 コニカミノルタ センシング(株)		3次元形状計測機器・カラーディスプレイ用、色、光、温度などの産業用計測機器・医療用計測機器・フォトメータなど
		売上高 431,118 (625,753) 営業利益 46,408 (62,856) 従業員数 20,523名
		売上高 76,711 (85,825) 営業利益 16,168 (15,281) 従業員数 2,113名
		売上高 223,962 (277,693) 営業利益 △5,372 (△6,644) 従業員数 6,878名
		売上高 120,871 (120,871) 営業利益 7,906 (7,906) 従業員数 2,669名
		売上高 2,657 (8,030) 営業利益 801 (1,774) 従業員数 232名

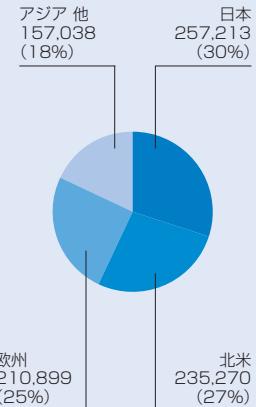
注1: 売上高は外部顧客に対する売上高です。また、()内は
旧ミノルタ中間実績を含んだ数値です。

注2: 従業員数は平成16年3月31日現在のものです。

セグメント別

連結売上高に占める 海外売上高

(単位：百万円)



平成15年度のレビュー

- MFP事業では、フルカラー機およびモノクロ中高速機など付加価値の高い製品の販売拡大。欧米市場を中心に販売シェアの拡大に注力。
- フルカラーMFPでは、昨年10月に高速カラー機「8050」を投入し、高品質・高信頼性の商品とサービスを提供。
- ヒューレット・パッカード社(米国)、北大方正グループ(中国)など世界の有力IT企業との戦略的提携を積極的に展開。
- 本年2月、MFP製品の新ブランド『bizhub(ビズハブ)』を全世界で導入。同時に、フルカラーMFP『bizhub C350』、モノクロMFP『bizhub 7235』などの新製品5機種を発表。
- プリント事業では欧米市場を中心に低速カラーレーザプリンタの販売拡大に注力。同市場で第2位のポジションを確立。
- CD・DVDに使用される光ピックアップレンズ事業は、当社の持つ圧倒的な市場ポジションと幅広い製品対応力を背景に堅調に推移。
- デジタルカメラ用レンズユニットやカメラ付携帯電話用マイクロレンズなどのコンポーネント事業も、旺盛な市場成長に伴いそれぞれ大きく成長。
- 大型モニタや液晶テレビなどの液晶偏光板用TAC(トリアセチルセルロース)フィルムをはじめとする液晶材料分野で、高付加価値製品の拡販に注力、売上拡大。
- 昨年春に発売したデジタルミニラボ機「R1 Super」が海外市場で販売好調。店頭でのデジタルプリントの取り込みを積極的に展開、印画紙事業の販売規模・収益拡大に注力。
- インクジェットメディアや証明写真システムなどの非銀塩写真分野で着実な実績。
- カラーフィルム事業は日米欧における需要減の影響を大きく受け収益減。
- デジタルカメラ事業は「DiMAGE(ディマージュ) Xt」など意欲的な新製品を発売し、売上ベースでは市場成長を上回る実績。しかし熾烈な価格競争のため、収益減。
- 開発・生産・販売の各機能で戦略・方針の抜本的見直し。激変する市場に耐えうる事業構造へ転換。
- 医療分野では、病院内のデジタル化に対応しデジタルX線画像撮影装置「REGIUS(レジウス) Model 170」の販売拡大。ドライフィルムの販売も堅調。
- 印刷分野では、アジアを中心とする海外市場においてフィルムの販売拡大。
- 国内において、フィルムレス化に対応したデジタル色校正システム「デジタルコンセンサス プロ」が、その品質・機能を市場に高く評価されトップシェアを獲得。
- パソコンモニターの色彩管理に活用される「ディスプレイカラーナライザ CA-210」をはじめとした光源色計測機器が好調。業種・企業を特定して、集中的な営業活動を展開し、日本・アジア市場を中心に販売拡大。
- 生産面ではリードタイム短縮による連結在庫の圧縮、少量多品種生産に適した生産システムの構築などの構造改革に取り組み、事業収益性の維持・向上に注力。